

防災・減災事業

「あかぎ防災キャンプ」

1. 趣旨

次代を担う人材の育成、防災意識と社会参画意識のさらなる向上を目指し、これからの防災・減災の担い手である中学生を中心とした防災キャンプを開催し、防災ジュニアリーダーを育成する。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和4年8月19日（金）～21日（日）【1泊2日】

(2) 参加者

中学1、2年生 生徒10名（男子6名、女子4名）

3. 企画運営のポイント

- (1) あかぎ防災キャンプの目標を「防災・減災の担い手となる防災ジュニアリーダーの育成」に設定し、キャンプでの学びを学校や地域社会で活用する。
- (2) 最初の防災講話で群馬大学大学院金井教授から中学生として身に付けてほしいことを伝え、キャンプにおける学びの目標を明確に設定する。
- (3) 学びごとに振り返りを行い、グループワークを取り入れ、子供たち同士で考えを共有し、「中学生の自分たちができること」を発表する。
- (4) 前橋市防災危機管理課の協力のもとに、意欲的に学び、充実した体験活動ができるようにする。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
8月19日 (金)		【講義】「防災講話」 【訓練】「災害体験訓練」 【実習】「避難所開設」	【実習】「防災クラフト」
8月20日 (土)	【実習】風水害プログラム 【野外炊事】「防災カレー」	【講義】「防災講話」 【実習】「HUG風水害編」	【グループワーク】 「避難所での自分たちの役割を考えよう」
8月21日 (日)	「発表会」 「ふりかえり」		

5. 主な活動内容



【講義】「防災講話」



【訓練・実習】「地震体験訓練」



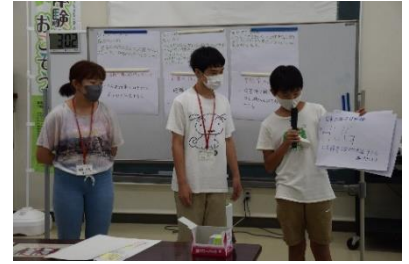
【実習】「防災クラフト」



【講義】「風水害プログラム」



【実習】「HUG 風水害編」



発表会

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足8名（80％） やや満足2名（20％） やや不満0名 不満0名

(2) 参加者の声

- ・僕たちができる防災について知ることができた。また、仲間と協力する大切さを学ぶことができた。
- ・昨年に引き続き今回2回目の参加であったが、プログラムの内容も異なり防災について楽しく学べた。他のイベントも参加してみたい。
- ・実践的な内容が多く、いろいろな体験ができてとてもよかった。

(3) 成果

- ①金井教授の防災講話では、身に付けてほしいこととして「知識を身に付ける」、「自ら判断し、行動することができる主体性」、「他者を思いやる心とみんなで協力すること」が示された。キャンプでの学びの目標が明確になった。
- ②「このキャンプで、僕達ができる防災などを知れたり、仲間と協力する大切さなどを知れたりしました。」という意見から、避難所開設や段ボールベッドの組み立て、テント設営、土嚢づくり、HUGでの避難所運営の仕方を学んだことが防災についての知識や技術の習得に結びついていた。
- ③閉会式では「普段の生活の中で、他人を思いやることができることは、バスでお年寄りに席を譲ることです。」という宣言があり、キャンプでの学びを家庭に戻ってから活用しようとしていた。

(4) 課題

- ①夜の活動の開始予定時刻が遅めであり、さらに活動も長引いてしまったため、1、2日目の終了が21:00を大幅に過ぎてしまった。遅くとも20:00までには活動を終了し、就寝準備の時間を十分に確保できるようにする。
- ②グループで発表内容をまとめることに苦労した。グループワークでは振り返りと共有を行い、発表は一人ずつにするなど、参加者の実態に応じた工夫をする。
- ③金井教授による講話と発表会の講評が最大限に活かされるように、企画の段階から指導助言をうけながら、効果的なプログラム作りをする。

担当：企画指導専門職 杉山 直弥